

想 続

家族について

一般社団法人日本想続協会
代表・税理士 内田麻由子

イギリスのサッチャー元首相は「社会などというものは無い。個人としての男がいて、個人としての女がいて、家族があるだけだ」という言葉を遺しました。いま私たちの国は、少子高齢化、いじめ、虐待、自殺、孤立死など様々な問題をかかえています。法律や行政など社会のしくみを変えることはもちろん必要です。一方で、社会の最小単位である家族がもっと家族として機能していれば、そこまで深刻な問題には至らなかったというケースも多いのではないのでしょうか。

また、相続の現場では、親が遺してくれた遺産をめぐる「争続」になってしまうケースが年々増えています。よく「相続で揉めないように遺言書をつくりましょう」と言われます。ところが、遺言があっても揉める家族は揉めますし、遺言などなくても円満な相続ができる家族もあります。両者の家族の違いは何でしょうか。今月は、家族のあり方について考えます。



● 家族遺産

私の友人の瀧澤尚子さんは、普通のご家族向けに、父母や祖父母のこれまでの人生を写真と短い文章で綴った、オリジナル・アルバムを制作しています。子や孫から、父母や祖父母へ、長寿祝いとして贈りたいという依頼が多いそうです。「家族遺産」と名付けたアルバムには、その家族の歴史が刻まれています。

戦前・戦中・戦後を懸命に生き、4人の子を育て、今は孫や曾孫にかこまれて幸せに暮らすお母さん。どこにでもいるごく普通の女性です。しかし、家族にとってはかけがえのない大切な母親、ゴッド・マザーです。家族みんなで協力して作った「家族遺産」アルバムには、「お母さん、こんなに苦労して私たち子供を育ててくれてありがとう。おばあちゃん、いつも私たちを愛情深く応援してくれてありがとう。これからも元気で長生きしてね。」という、子供たちや孫たちの感謝の気持ちが込められています。世界にたった一つだけの家族の宝もの、まさに家族の遺産なのです。

● ひいおじいちゃんは宝

ある小学生の詩です。「ぼくの家のおひいおじいちゃんはもう91歳です。自分では何もできないひいおじいちゃん。たまには外に出たいだろうな。散歩もしたいだろうな。思いきり走りまわ

りたいだろうな。ぼくの家ではみんなひいおじいちゃんを大事にしています。どうしてかという
と、もしひいおじいちゃんが生まれてこなかったら、おとうさんもぼくも生まれてこないこと
になります。今はなにもできないひいおじいちゃんだけど、若いときは家族のために働いていま
した。それをみんな知っているから大事にしているのです。ひいおじいちゃんはぼくの家
の宝です。もっともっと長生きして欲しいです。ぼくもうんと大事にしたいと思
います。」

このご家庭は素晴らしいですね。このような教育は家庭でしかできないと思います。私
たちが普段どのように親と接しているのか、子どもはちゃんと見ているの
ですね。

● 孤立死

僧侶の中下大樹さんの著書「あなたならどうする孤立死」(三省堂)を読みました。中下
さんは、家族と絶縁状態のまま独りで亡くなった方の供養をしてきました。やっ
と見つけた家族に連絡しても、「一切かかわりたくありません。遺骨もそちらで
勝手に処分してください」という家族を何度も見てきたといいます。

家族もきつとはじめのうちは、「ちゃんとした仕事につきなさい」「お酒をやめな
さい」などと忠告していたのでしょう。しかし、本人が聞く耳を持たないため、
徐々に「もう勝手にしろ」と絶縁状態になってしまったのではないかと思
います。その忠告は、一番悩み苦しんでいる本人のためというよりも、「こんな
家族がいては世間に対してみっともない」「お金のことで迷惑をかけられては
かなわない」という、自分本位の気持ちのほうが強かったのではない
でしょうか。

● 争続

相続で争いになった兄弟も、普段から特別に仲が悪かったわけではありませ
ん。互いにお歳暮や子供の入学祝いを贈り合うなど、表面的には問題なく付き合
っていたことでしょう。しかし、それぞれ家庭を持ち離れて暮らしていて、会
うのは年に数回であるため、たとえば親の介護がどれほど大変なのか、ある
いは給料が減ってどれほど生活が苦しいのかなど、普段から互いの生活を慮
ることが難しいのです。特に男性は見栄やプライドがあるので、兄弟に弱み
など見せられません。また子供の教育にもお金がかかります。そのため、いざ相
続で数千万円というお金が入ってくると、「もらえるものはもらいたい」と揉
めてしまうのです。

相続の現場では、ほぼ2件に1件は揉めているというのが実感です。相続で争
うということは、すなわち「兄弟の縁よりもお金のほうが大事だ」という価値
観だということです。しかし、考えてみてください。同じ親から生まれた兄弟の
歳の差はおおむね10歳以内です。お互いに寿命が順当にいけば、親子より
も夫婦よりも、地球上の誰よりも長い時間を共に生きるのが兄弟です。そ
んなかけがえのない、有難い存在である兄弟と、たかだかお金のことで争
って縁を切ってしまうって本当にいいのでしょうか。相続で争ったために、
兄弟と一緒に親のお墓参りもできなくなってしまうのは、とても悲しいこと
です。



● 家族の実力

家族の「光と闇」をそれぞれ2つの例で見えてきました。円満で温かい家族と、
絶縁状態になってしまった家族を分かつものは何でしょうか。

淀川キリスト教病院名誉ホスピス長の柏木哲夫先生は、著書「家族の実力」のなかで、「苦境にある人を、家族がどれほど支えることができるかがとても重要です。一人の人間の力だけでは、とても乗り越えられない困難も多々あります。そんな時、家族全体としてどう対処し、その困難や危機を心に収め、協力して乗り切っていくか。そこに本当の『家族の力』は発揮され、それぞれの家族に差が出てくるのです。家族として一人ひとりが力を合わせ、事にあたることができるか。それとも、家族同士が互いに批判し合い、何も解決できないか。悲しいこと、辛いこと、苦しいことなどを共に力を合わせて乗り越えていく——。そこに『家族の実力』の真価が問われるのです。」と述べています。

● サザエさん

現在、日本の全世帯のうち約3割が単身世帯（一人暮らし）です。「核家族化」から「個族化」していく現代の日本社会。3世代7人で同居する「サザエさん」のような家族は、今や少数派となっていました。「サザエさん」が今なお長寿番組であり続けているのは、そこに失われた家族像やご近所づきあいの姿があるからではないでしょうか。

家族全員が互いにちょっとおせっかいで、ありのままの自分でいられて、（主にサザエとカツオによって）家庭内にはいつも笑いがある。そんな磯野家の人たちの日常生活に、多くの人が心安らぐのではないかと思います。私もそんな一人です。大学生の娘と、日曜日の夕方に「サザエさん」を観ながら一緒に食事できることは、私のささやかな幸せです。

● 家族とは

「共に喜ぶのは二倍の喜び、共に苦しむのは半分の苦しみ」——アルフォンス・デーケン先生に教えていただいた、ドイツの古いことわざです。嬉しいことも悲しいことも共有できるのが家族です。離れて暮らしていても、互いを思いやり、心が通じ合っていれば家族です。反対に、たとえ一緒に住んでいても、互いに憎しみ合い、あるいは無関心ならば、それはもはや家族とは言えないのではないのでしょうか。

動物も人間も、家族を持って子を産み育てます。しかし動物は、子が成人したら親子や兄弟の縁はなくなってしまう。群れで生活する動物もいますが、それは家族の集まりではなく、生きるための集団に過ぎないのだそうです。人間だけが、成人しても死ぬまで、いや死んだ後までも、家族の関係は続くのです。

家族とは何でしょうか——。私は、「家族とは、愛し合い、支え合い、わかち合うもの」と定義したいです。加えて、家族の間にいつもユーモアがあり、日々「笑い合う」ことができたらいいなと思います。あなたにとって、家族とはどんな存在でしょうか。



「家族とは何か」を考える 30 の言葉（水口貴博）

- 1 家族とは、家の礎。基礎となる大事なもの。
- 2 家族とは、この世で最も不思議な鎖。あるときは縛られ、あるときは命綱になる。
- 3 家族とは、大きな写真アルバム。いろいろな思い出が詰まっている。
- 4 家族とは、学校である。生徒になったり先生になったりする。
- 5 家族とは、空気のようなもの。当たり前すぎて、感謝に気づかない。
- 6 家族とは、守護神である。見えなくても、常にそばにいる守り神。
- 7 家族とは、駅のホーム。出発する場所であり、戻ってくる場所でもある。
- 8 家族とは、芸術である。破壊と創造を繰り返して、成長させていくもの。
- 9 家族とは、運命共同体。人生におけるあらゆる運命を、ともにする。
- 10 家族とは、脱衣所。裸になる場所。
- 11 家族とは、ふるさとそのもの。自分の原点であり、一番落ち着けるところ。
- 12 家族とは、アキレスけん。自分の一番の弱点。
- 13 家族とは、鍋料理。あくが出れば、取り除こう。
- 14 家族とは、体のツボのようなもの。1 点を押すだけで、よい影響が全体に広がる。
- 15 家族とは、自分の分身。遺伝子によるつながりがある。
- 16 家族とは、避難場所である。本当に困ったとき、逃げ込むところ。
- 17 家族とは、ワインと同じ。時間が経つにつれて熟成され、味わいが深くなる。
- 18 家族とは、ゴールドのようなもの。小さくても、かけがえのない価値がある。
- 19 家族とは、料理と同じ。面倒を楽しむもの。
- 20 家族とは、万華鏡。形が変わる様子を見て、楽しむ。
- 21 家族とは、日光浴。気持ちはいいが、温まりすぎるのもよくない。
- 22 家族とは、充電器。失われたエネルギーを、再び蓄えるところ。
- 23 家族とは、プロジェクトチーム。それぞれのチームワークが大切。
- 24 家族とは、家を建てるようなもの。最初からできているのではなく、作っていくもの。
- 25 家族とは、神社のようなもの。これまでに感謝したり、これからを祈ったりする。
- 26 家族とは、窓ガラス。定期的に綺麗にしておかないと、美しい光が入ってこない。
- 27 家族とは、監視カメラ。見られている感覚のおかげで、身が引き締まる。
- 28 家族とは、くろこである。目立たないが、主役の活躍をフォローする存在。
- 29 家族とは、銀行のようなもの。預ける量が多いほど、利子も大きくなる。
- 30 家族とは、納豆と同じ。よく練るほど、おいしい粘着力が出てくる。

◆著者：水口貴博（みなくち たかひろ）

愛媛県・伊予市出身。現在、東京都・世田谷区在住。人生を豊かに生きるための情報を提供するウェブサイト「HappyLifeStyle」の著者、運営者。2003年8月夏に、親友からの褒め言葉に背中を押されたことがきっかけで「HappyLifeStyle」が誕生。悩み解決と幸せな生活につながるノウハウを体系的にまとめ、ウェブサイトを通して、無償で幅広く紹介している。 ※ウェブサイト「HappyLifeStyle」 <http://happylifestyle.com/>